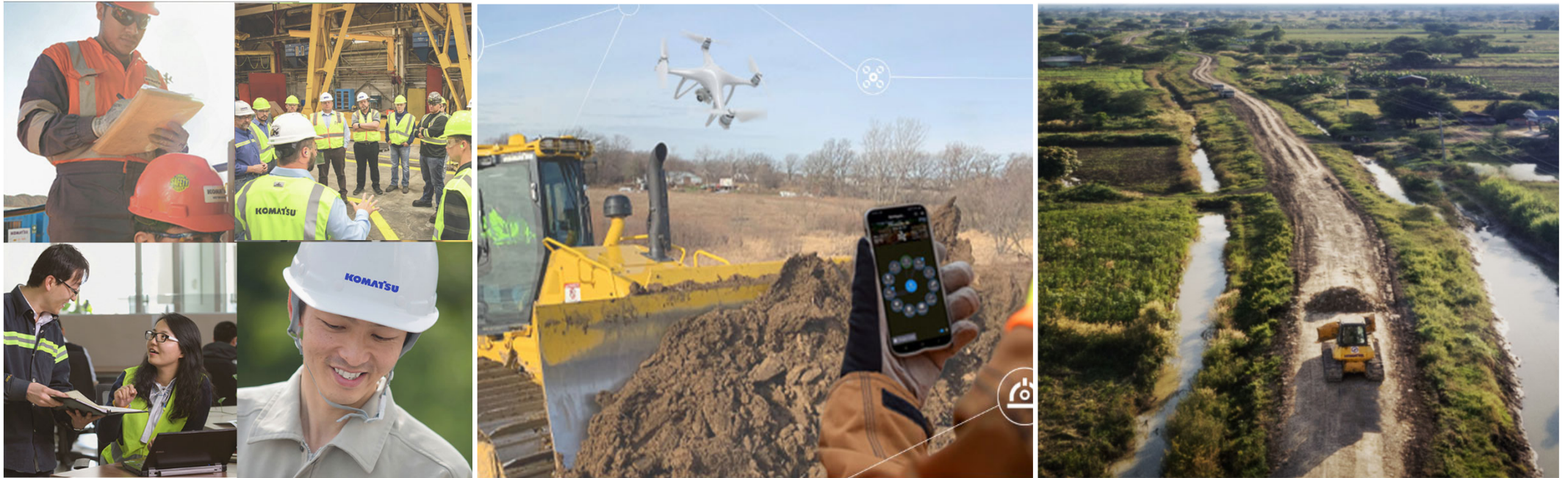


【証券コード】6301

KOMATSU

個人投資家向けイブニングオンライン会社説明会



成長戦略と業績および株主還元について

コマツ

取締役（兼）専務執行役員CFO 堀越 健

2024年3月21日（木）

1. コマツの概要
2. 中期経営計画
—成長戦略とESG課題解決—
3. 業績および株主還元について

1. コマツの概要

2. 中期経営計画

—成長戦略とESG課題解決—

3. 業績および株主還元について

- 1921年5月13日 株式会社小松製作所設立（1917年に前身の小松鉄工所設立）。
- 創業者の志：「工業富國基」
(工業は国を富ませる基なり 人材育成こそが工業富國基の基本)

【コマツ創業の精神】

- ◆ 海外への雄飛
- ◆ 品質第一
- ◆ 技術革新
- ◆ 人材の育成

創業の精神は、
遺伝子として受け継がれている



創業者 竹内 明太郎
(高知県宿毛市出身)

コマツの概要

設立

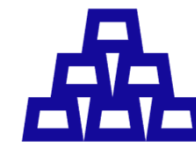
1921年5月13日



創業者 竹内 明太郎により、石川県小松市に設立されました。

総資産 *1

4兆8,758億円



棚卸資産や売上債権の増加に加え、為替の影響もあり、前年度末比で増加しています。

連結売上高 *1

3兆5,435億円



連結売上高は2001年から3倍以上に成長しています。

連結子会社 *2

211社



日本国内12社、海外199社の内訳です。

連結営業利益 *1

4,907億円



連結営業利益率は13.8%です。

従業員数 *2

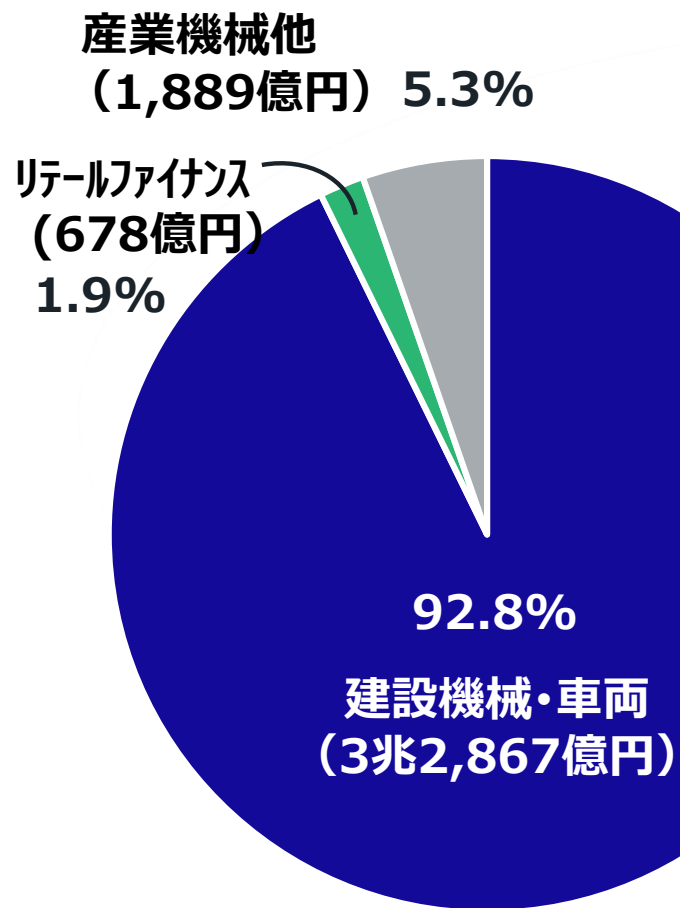
64,343人



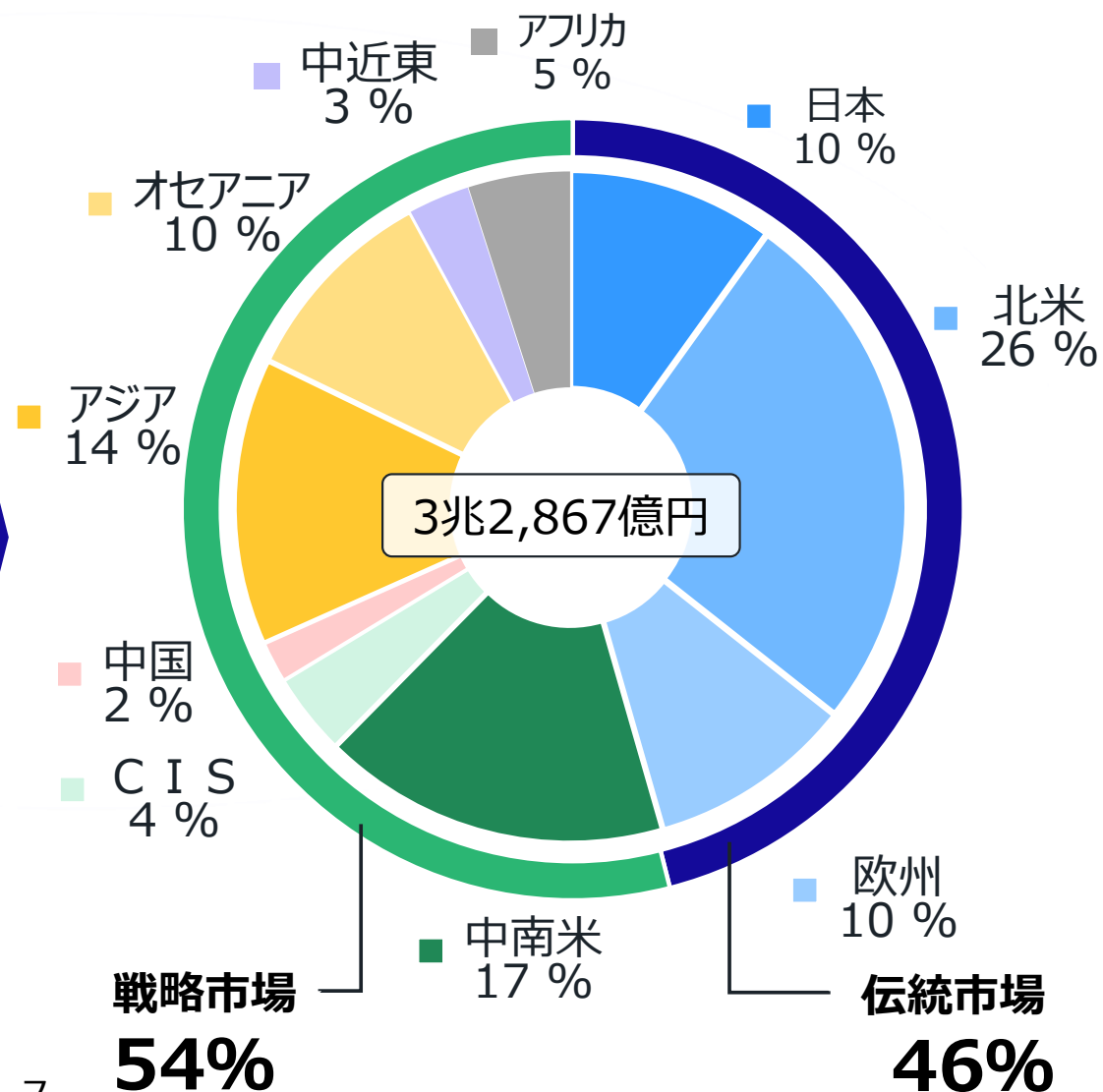
社員の約68%は外国籍のグローバル企業です。

事業別・地域別売上高（2023年3月期実績）

事業別売上高*構成



建設機械・車両事業の地域別売上高*構成



*売上高は外部顧客向け（セグメント間取引消去後）ベース

主要商品

建設機械・車両

一般建機



油圧ショベル



ブルドーザー



ホイールローダー



モーターグレーダー

鉱山機械



ダンプトラック



超大型油圧ショベル



ロープショベル



ロードホールダンプ
(坑内掘り鉱山機械)

産業機械他



半導体露光装置用光源
(エキシマレーザー)



半導体シリコンウエハー用
ワイヤーソー



大型ACサーボプレス
(自動車ボディ成形用)

主要商品（鉱山機械：採掘工法別）

- ・ 鉱山の採掘工法は、地表近くを採掘する「露天掘り」と地層深くを採掘する「坑内掘り」があり、採用する工法によって使用される鉱山機械が異なる。
- ・ グループ会社のコマツマイニングを中心に、鉱山機械のラインナップ拡充を推進中。

露天掘り

主な製品



油圧ショベル



ダンプトラック



ロープショベル



© 2017 Komatsu Mining Corp. All rights reserved.

坑内掘り

主な製品




ロードホールドャンプ



ドリルジャンボ



採掘機

 コマツマイニング製鉱山機械

グローバル開発・生産体制

- 本体の組立は、需要の大きい地域で行う。
- 開発と生産の一体化：開発・生産機能を持つ工場＝「マザー工場」。
- 主要コンポーネントは日本で開発・生産し、国内で技術革新を生み出す。

建設機械・車両の主な生産拠点

◎ ◎ ◎ …「マザー工場」



現地組立・生産の目的

- ① 顧客の信頼を勝ち取る
- ② 品質問題の早期解決
- ③ 現地仕様の取り込み
- ④ リードタイムの短縮
- ⑤ 為替リスク対応

地域別の生産拠点数

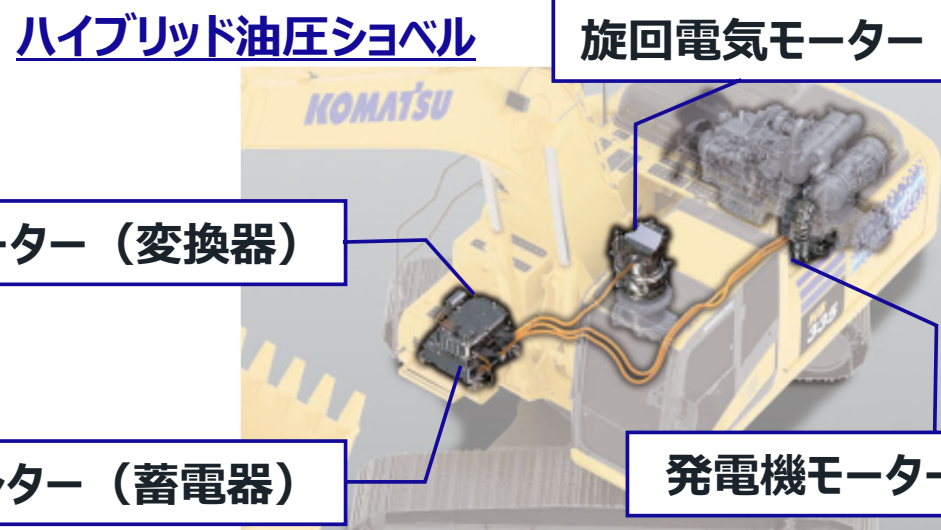
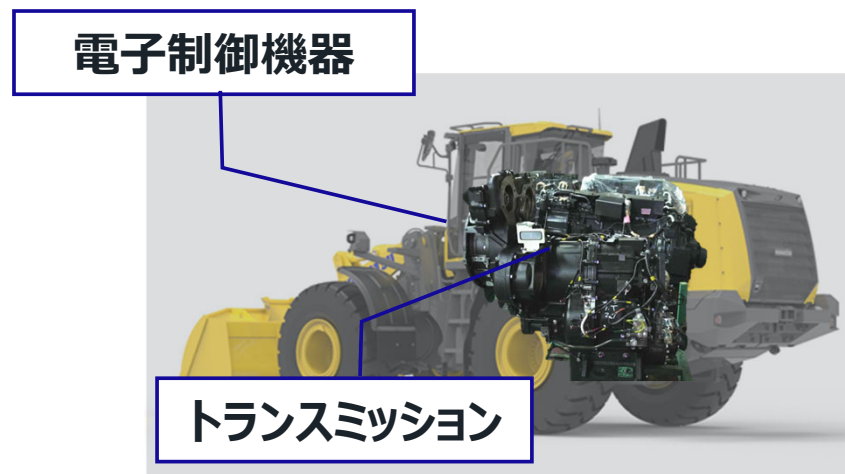
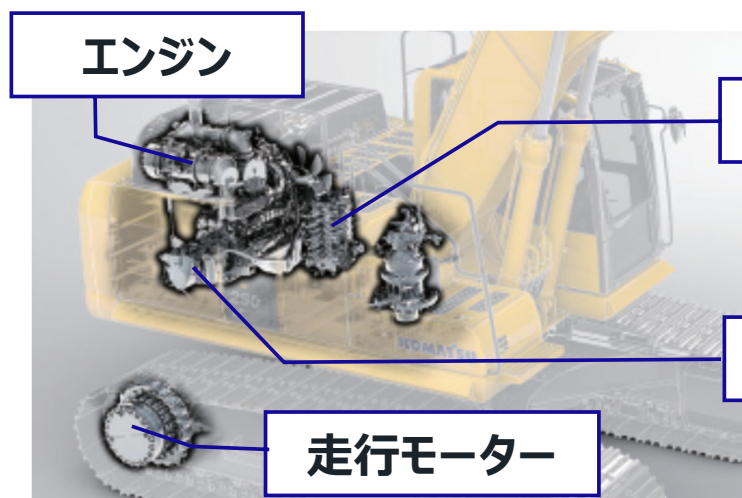
日本	米州	欧州 CIS	中国	アジア オセアニア	中近東 アフリカ	合計
12(4)	19(1)	14(4)	6	8	1	60(9)

コマツの強み ①キーコンポーネントの自社開発・自社生産

・ 自社開発・自社生産だからこそできること。

- ① 技術革新の継続
- ② 全世界に同一品質のコンポーネントを安定的に供給
- ③ コンポーネントの再生ビジネス
- ④ 取り付けしたセンサーからの情報を解析した予知保全

主なキーコンポーネント

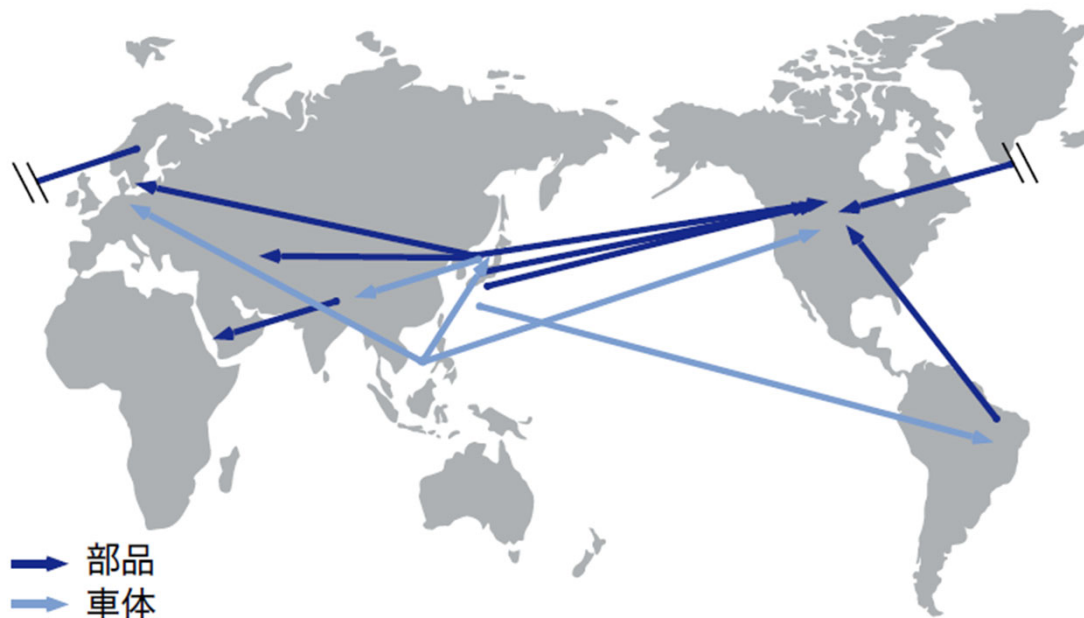


コマツの強み ②環境変化に強い生産・調達体制

- ・ 需要・為替の変動など、各工場の生産能力を有効活用し、最適な工場生産して輸出。
- ・ パンデミック・自然災害・地政学的リスクなどの環境変動に強い生産調達体制の構築を推進。

グローバルクロスソース体制

世界各地の生産拠点で同一品質の製品を生産する体制を整備



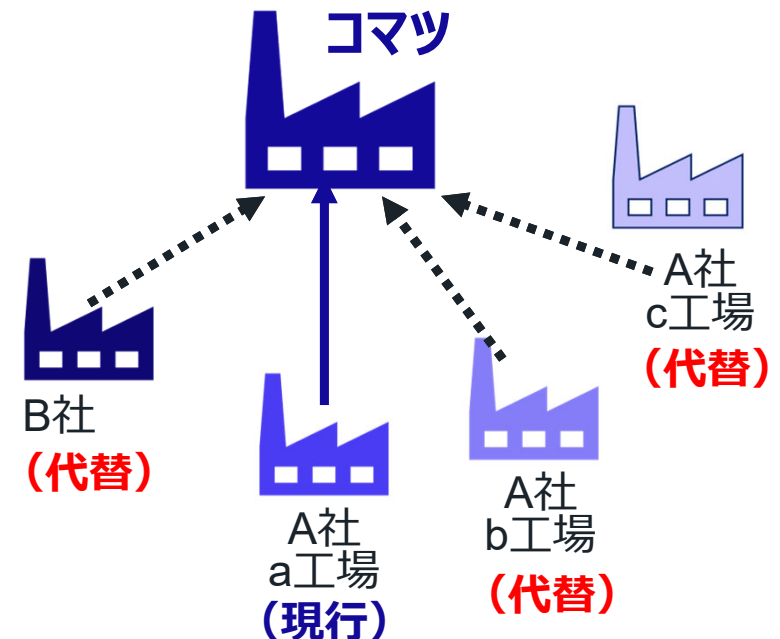
<必要条件>

- ①ベースマシンの統一
- ②生産管理システムの統一
- ③生産・設計BOM*の統一
- ④製造プロセス・品質基準の統一

*BOM: Bill of Material 部品構成表

調達マルチソース体制

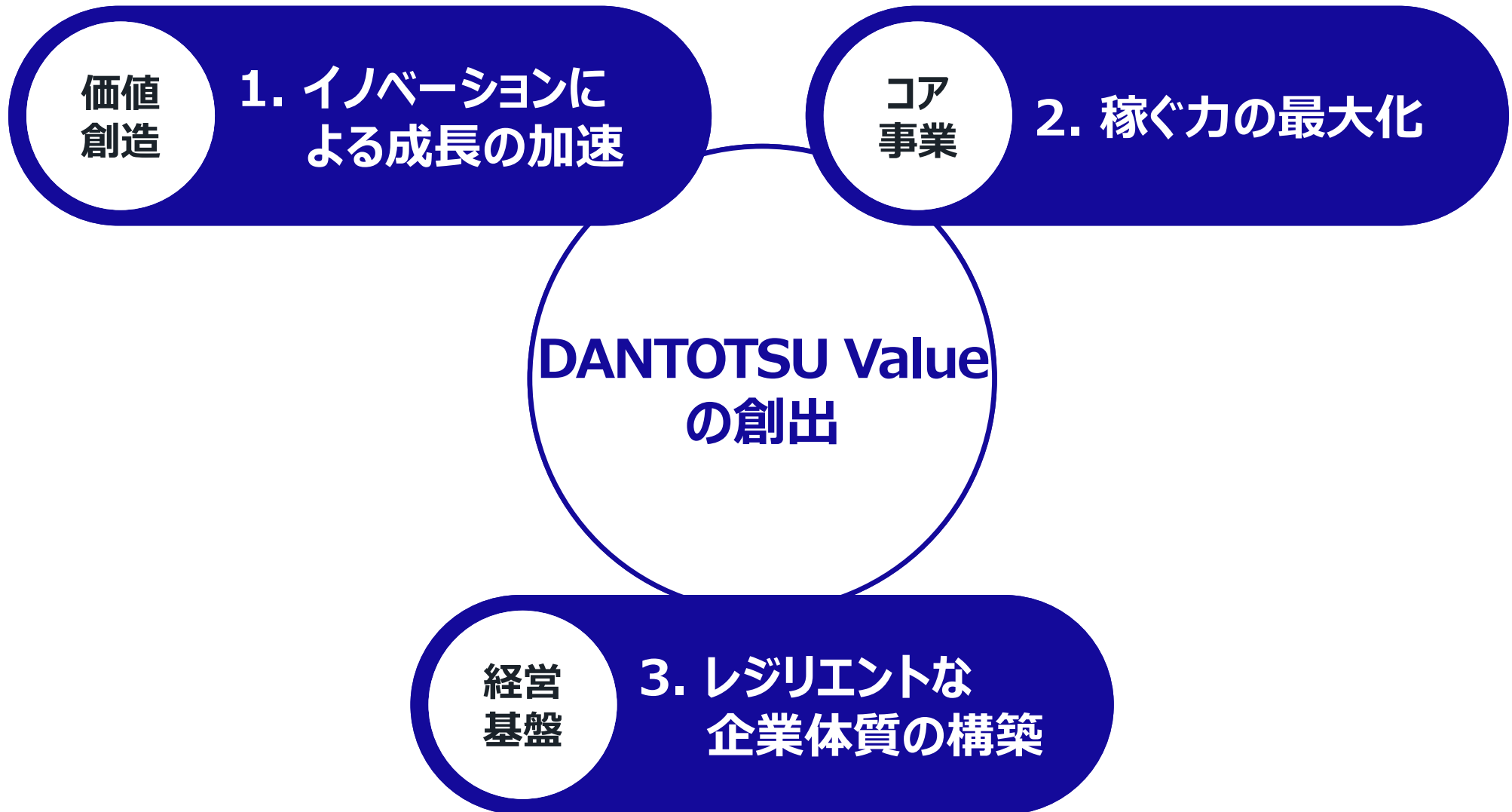
複数メーカーからの部品購入、現地調達
の拡大



1. コマツの概要と強み
2. **中期経営計画**
—成長戦略とESG課題解決—
3. 業績および株主還元について

DANTOTSU Value

Together, to "The Next" for sustainable growth

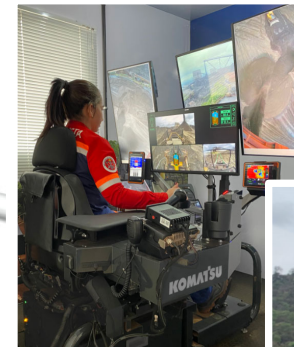


成長戦略3本柱 (1) イノベーションによる成長の加速

電動化建機の開発・導入



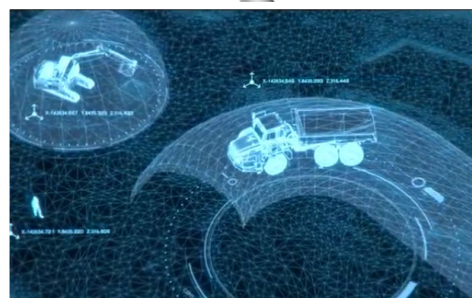
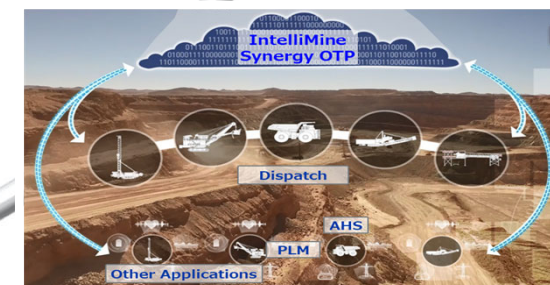
自動化に向けた取り組み



現場を最適化する
新たな顧客価値の創造

イノベーションによる 成長の加速

カーボンニュートラルに向けた
価値（モノ・コト）づくりの挑戦






















DXスマートコンストラクション の推進

鉱山用オープンテクノロジー プラットフォーム



- 建設・鉱山機械の機種・クラス・地域ごとに様々な方法でアプローチ。

	～2021	2022	2023	～2030	
小型ショベル フォークリフト	<p>鉛バッテリー</p> 	<p>有線電動</p> 	<p>バッテリー電動</p> <p>電動 ミニショベル PC30E-5</p> 	<p>リチウムバッテリー</p> <p>電動フォーク FE25G FE30G</p> 	<p>Hondaと協業 PC05E-1 23年度市場導入</p> <p>3トン量産モデル PC30E/33E-6 23年度市場導入</p>  
中大型 ショベル	<p>ハイブリッド</p> 	<p>リチウムバッテリー</p> <p>PC200LCE/ 210LCE-11 23年度市場導入</p> 	<p>リチウムバッテリー</p> <p>PC138E-11 23年度市場導入</p> 	<p>水素エンジン 燃料電池</p>  <p>23年 コンセプト マシン発表</p>	
ホイール ローダー		<p>バッテリー電動</p> 	<p>ムーグ社と共同開発 22年コンセプトマシン発表</p>		
鉱山機械 (地表)	<p>ディーゼルエレクトリック、 トローリ</p> 	<p>有線電動</p> 	<p>パワーアグノスティック</p>  <p>コンセプトマシン発表</p>	<p>バッテリー電動</p> <p>テストベンチ 設置</p> 	<p>水素エンジン 燃料電池</p>  <p>パワーアグノスティック 25年：バッテリートローリ 30年：燃料電池</p>
鉱山機械 (地下)	<p>ハイブリッド</p> 	<p>バッテリー電動</p> <p>ドリルジャンボ 21年度試作 24年度量産</p> 	<p>ボルタ 23年度試作 24年度量産</p> 	<p>LHD 23年度試作 24年度量産</p>	

出力サイズ

自動化に向けた取り組み

- お客様の現場の安全性と生産性を向上する自動化した建設・鉱山機械のラインナップを拡大。

建設機械自動化の取り組み

建設機械向けの遠隔操作システム

EARTHBRAINと共同で開発し'23/3よりお客さまへ提供を開始。



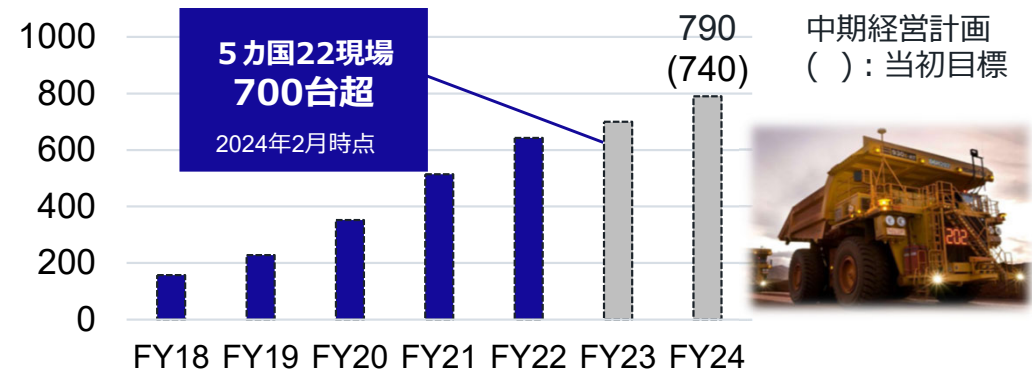
未来の水中工事

青木あすなろ建設様と共に2025年大阪・関西万博に展示予定



鉱山機械自動化の取り組み

無人ダンプトラック運行システム (AHS)



大型ICTブルドーザー遠隔操作仕様車

'23/5より商用稼働を開始。

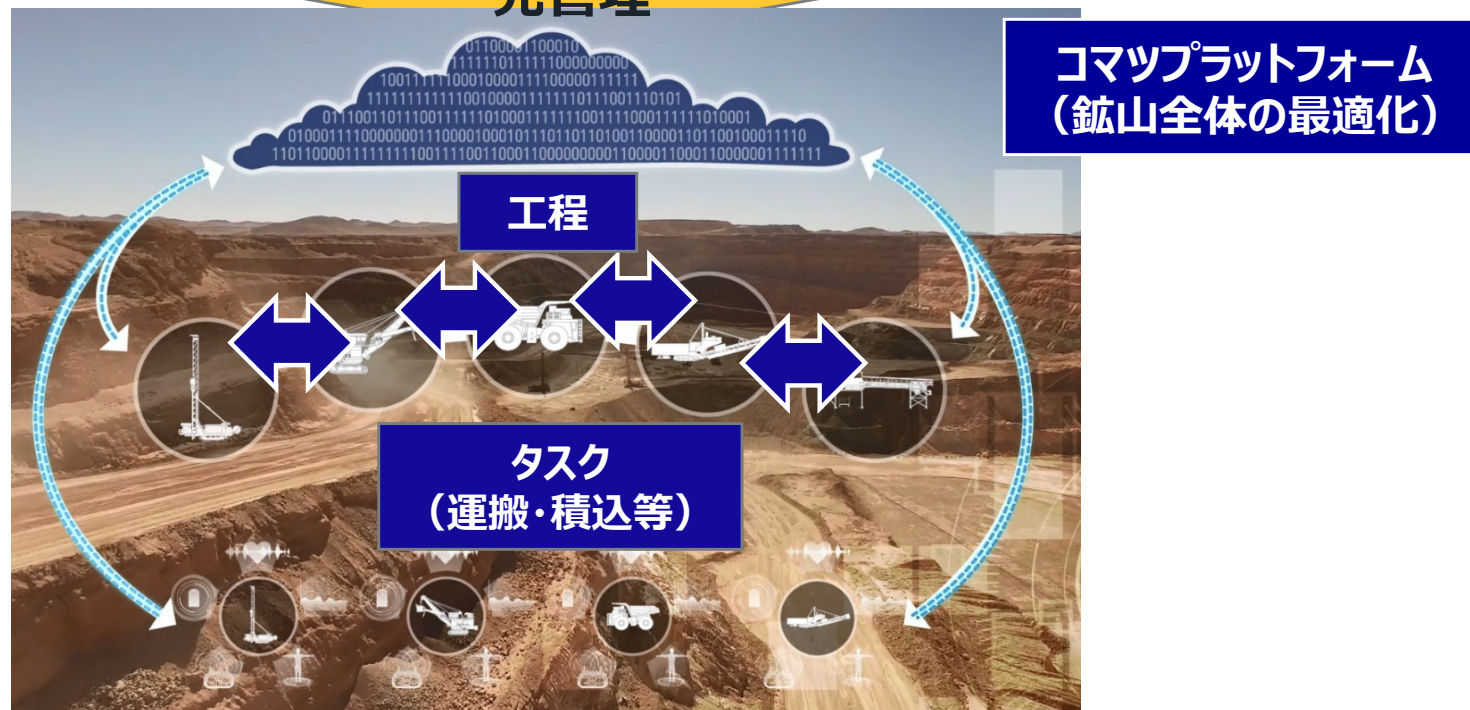


鉱山用オープンテクノロジープラットフォームによる事業推進

- お客さまである鉱山会社は、全データを一元管理し、工程から工程を遅滞なく繋ぐことで鉱山全体の最適化を目指している。
- コマツは鉱山用プラットフォームを開発。お客様の現場でのテスト導入を進め、鉱山全体の最適化に貢献。



一元管理



DXスマートコンストラクションの促進

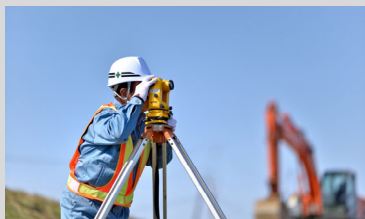
- 深刻化する建設現場の人手不足を背景に、現場の各工程をデジタル化したスマートコンストラクション®を開始。⇒全工程をデジタルでつなぐ『DXスマートコンストラクション』に進化。
- 本ビジネスモデルを北米、欧州5カ国、オーストラリア、東南アジアに展開。

各プロセスのデジタル化＝『縦のデジタル化』

従来施工

起工測量

人手で測量



時間と工数をかけて現況地形を測量

設計施工計画

土量の算出



紙の設計図から施工土量を算出

施工

丁張を設置し見ながら施工



設計図に合わせて丁張を設置
丁張を見ながら施工と検測を繰り返して成型

検査納品

出来形管理 書類検査



完成した地形を人手で測量
大量の出来形管理書類による納品

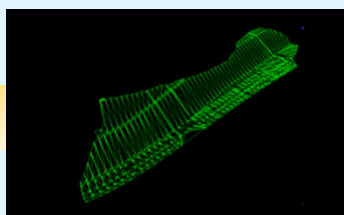
スマートコンストラクション

ドローンによる3D測量



広い現場でも短時間で3Dデジタル化

デジタル上で土量を算出



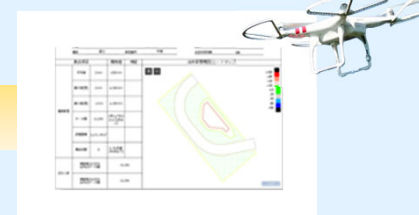
現況地形データと3D設計データから
デジタル上で施工土量を自動算出

ICT施工/施工進捗管理



丁張が不要になるICT建機で施工
施工履歴や施工進捗をデジタルで把握/管理

ドローン測量を活用した出来形検査


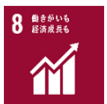














完成した地形をドローンで短時間で測量
出来形管理帳票を簡単に出力/納品

施工の全工程をデジタルでつなぐ『横のデジタル化』 = **DXスマートコンストラクション**

サステナビリティ基本方針と中期経営計画のKPI

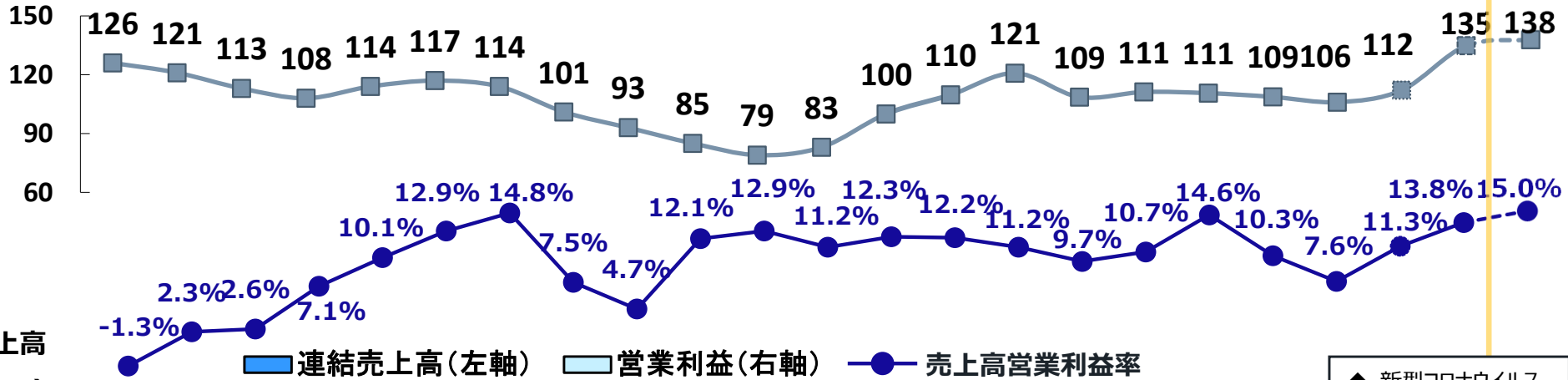
- サステナビリティ基本方針に基づき、事業活動を通じた社会貢献を目指している。
- 中期経営計画の成長戦略を通じたESG課題解決を着実に遂行していくためにKPIを設定。

	SDGsとの関係	中期経営計画のKPI＊ 24年度目標 例
人と共に マテリアリティ： 「社員」「人権」	 ジェンダー平等  働きがいと経済成長  不平等をなくす  パートナシップ	女性管理職比率（グループ連結） FY2022実績 10.3% → 目標 13%以上
社会と共に マテリアリティ： 「顧客」 「倫理・統治」 「地域社会」	 産業と技術革新  まちづくり  つくる・つかう責任  パートナシップ	スマコン導入現場数（世界計） FY2022実績 8,955 現場 → 目標（単年度） 13,000 現場 AHS累計導入台数 FY2022実績 643 台 → 目標 790 台
地球と共に マテリアリティ： 「環境」	 クリーンエネルギー  産業と技術革新  つくる・つかう責任  気候変動への対策  陸の豊かさ  パートナシップ	生産によるCO2排出削減率(2010年比) FY2022実績 △43% → 目標 △45% 製品使用のCO2排出削減率(2010年比) FY2022実績 △21% → 目標 △24%

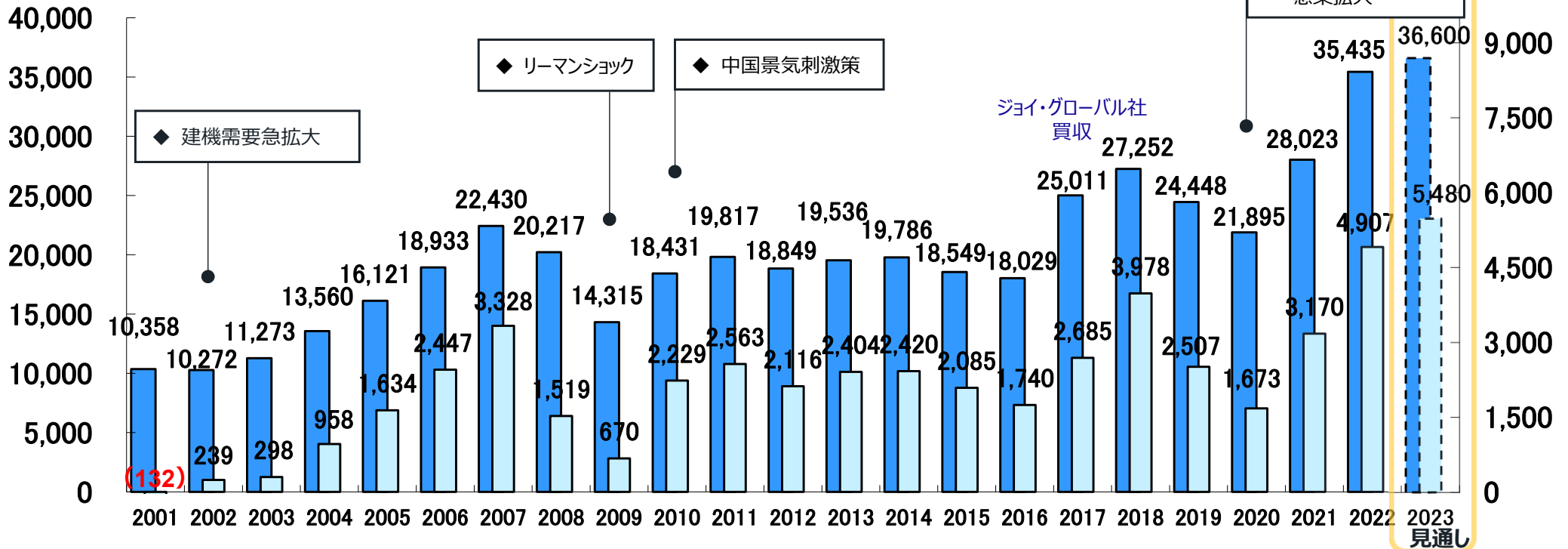
1. コマツの概要と強み
2. 中期経営計画
—成長戦略とESG課題解決—
3. 業績および株主還元について

年間業績推移

為替レート (円/ドル)



売上高 (億円)



営業利益 (億円)

海外生産拡大
多角化

選択と集中

ICTを活用したバリューチェーンの拡大

顧客価値創造

2023年度 第3四半期（4-12月）の概況

- 売上高は、前年同期比+10.1%増収の2兆7,950億円。
- 営業利益は、前年同期比+30.8%増益の4,534億円、売上高営業利益率は、+2.6ポイント上昇し16.2%。
- 純利益は、前年同期比+31.2%増益の3,043億円。

金額単位：億円	2022年4-12月 ¥135.6/USD ¥140.0/EUR ¥93.2/AUD	2023年4-12月 ¥143.4/USD ¥155.0/EUR ¥94.0/AUD	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	25,392	27,950	+2,558	+10.1%
営業利益	3,466	4,534	+1,068	+30.8%
売上高営業利益率	13.6%	16.2%	+2.6ポイント	-
当社株主に帰属する四半期純利益	2,319	3,043	+724	+31.2%

2023年度の業績見通し（概要）

- 売上高は、前年比+3.3%増収の3兆6,600億円。
- 営業利益は、前年比+11.7%増益の5,480億円。
- 1株当たり配当金は、144円。

下期為替の前提 1ドル:135円、1ユーロ:148円、1豪ドル:88円に見直し

金額単位：億円	2022年度 (A) ¥134.8/USD ¥140.3/EUR ¥92.5/AUD	2023年度 (10月見通し) (B) ¥137.7/USD ¥150.3/EUR ¥90.3/AUD	2023年度 (4月見通し) ¥125.0/USD ¥133.0/EUR ¥83.0/AUD	前年比 (B) - (A)	
				増減	増減率
売上高	35,435	36,600	33,820	+1,165	+3.3%
営業利益	4,907	5,480	4,910	+573	+11.7%
売上高営業利益率	13.8%	15.0%	14.5%	+1.2ポイント	-
当社株主に帰属する当期純利益	3,264	3,400	2,990	+136	+4.2%
ROE	13.7%	13.0%	11.7%	▲0.7ポイント	
1株当たり配当金（円）	139円	144円	139円	+5円	
配当性向	40.3%	40.1%	44.0%		

2023年度の各セグメント売上高と利益の見通し

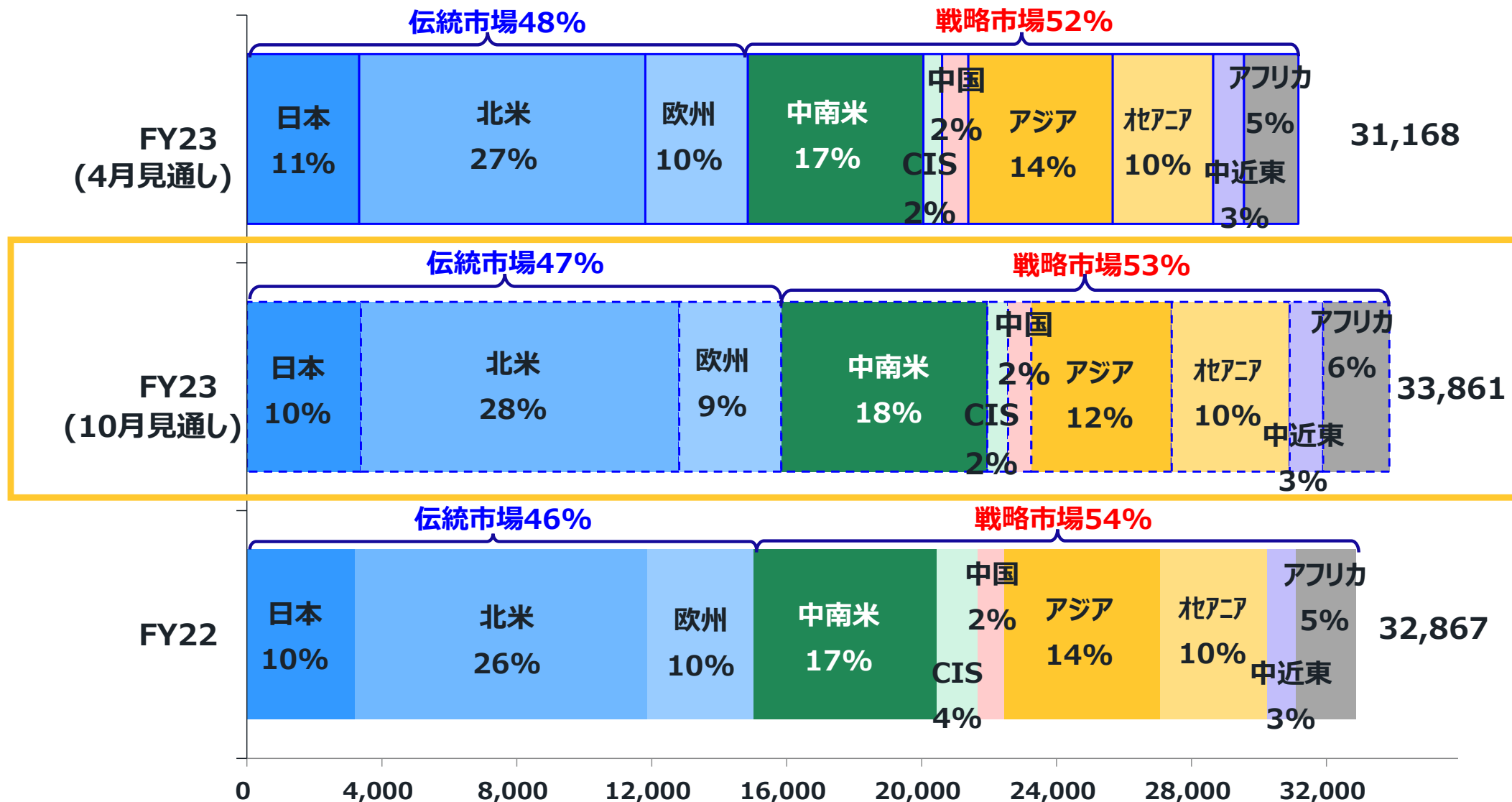
- 建設機械・車両部門の売上高は3兆4,040億円。セグメント利益は5,230億円。
- リテールファイナンス部門の売上高は950億円。セグメント利益は210億円。
- 産業機械他部門の売上高は2,010億円。セグメント利益は170億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2022年度 (A)		2023年度 (10月見通し) (B)		2023年度 (4月見通し)		前年比 (B) - (A)	
							増減	増減率
売上高	35,435	36,600	33,820				+1,165	+3.3%
建設機械・車両	(32,867) 32,966	(33,861) 34,040	(31,168) 31,380			(+994) +1,074	(+3.0%) +3.3%	
リテールファイナンス	(678) 856	(738) 950	(645) 835			(+60) +94	(+8.9%) +10.9%	
産業機械他	(1,889) 1,909	(2,001) 2,010	(2,007) 2,010			(+111) +101	(+5.9%) +5.3%	
消去	▲ 297	▲ 400	▲ 405			▲ 103	-	
セグメント利益	□ 13.9% 4,935	□ 15.2% 5,570	□ 14.7% 4,980			□ +1.3ポイント +635	+12.9%	
建設機械・車両	□ 13.5% 4,436	□ 15.4% 5,230	□ 14.8% 4,630			□ +1.9ポイント +794	+17.9%	
リテールファイナンス	□ 31.8% 273	□ 22.1% 210	□ 20.4% 170			□ ▲9.7ポイント ▲63	▲23.0%	
産業機械他	□ 11.8% 226	□ 8.5% 170	□ 11.4% 230			□ ▲3.3ポイント ▲56	▲24.7%	
消去または全社	1	▲ 40	▲ 50			▲ 41	-	

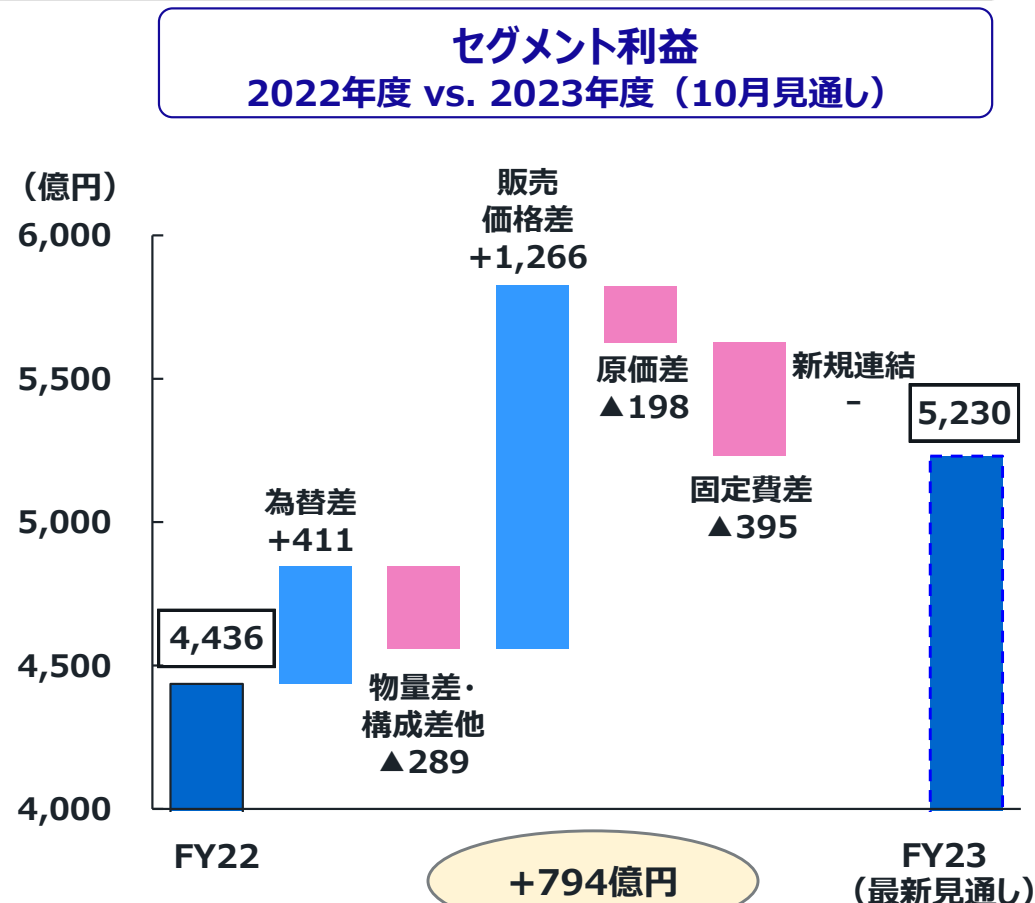
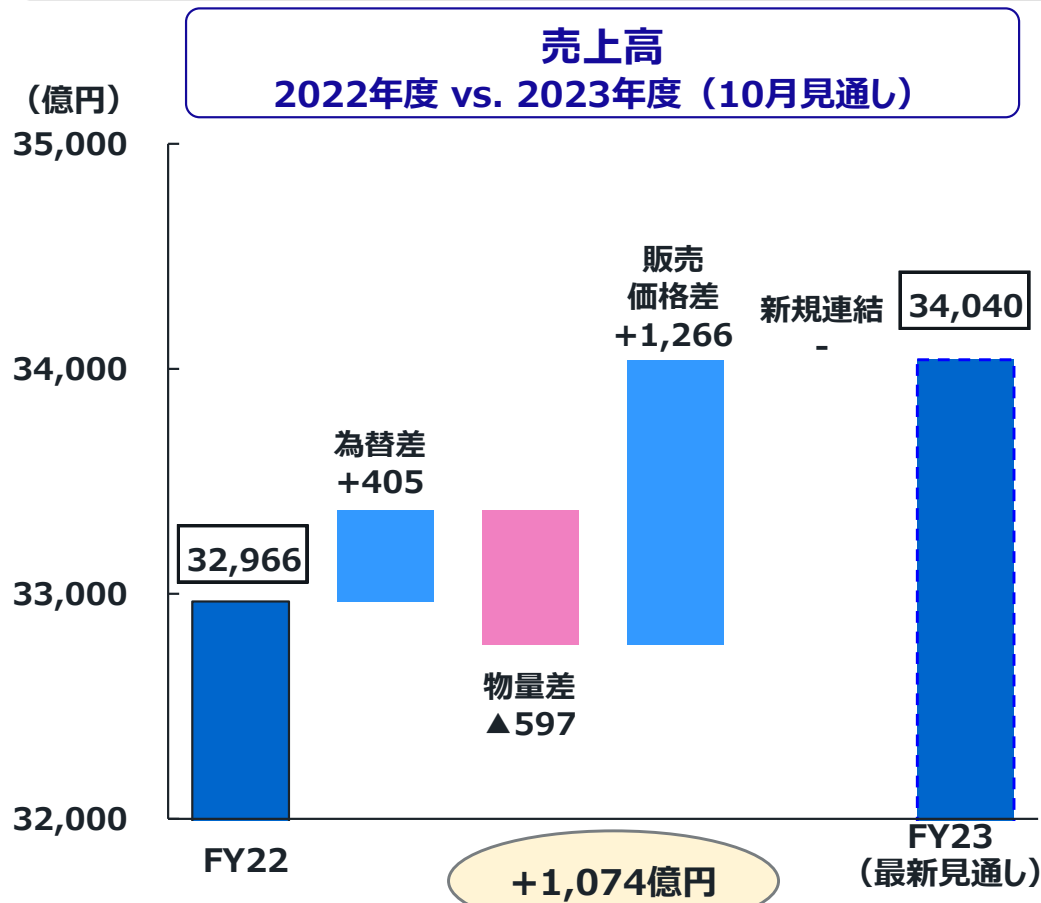
<建設機械・車両> 地域別売上高（外部顧客向け）

- 外部顧客向け売上高は、前年比+3.0%増収の3兆3,861億円。
- 北米、中南米などで売上高が大きく増加。CIS、アジアなどで売上高が大きく減少。
- 伝統市場の比率は47%、戦略市場の比率は53%。



<建設機械・車両> 2023年度の売上高とセグメント利益の増減要因の見通し

- 売上高は、為替および販売価格のプラス影響により、前年比+1,074億円増収。
- セグメント利益は、原価や固定費の増加を為替および販売価格のプラス影響により吸収し、前年比+794億円増益。
- 売上高セグメント利益率は前年比+1.9ポイント上昇し15.4%。



¥134.8/USD
¥140.3/EUR
¥92.5/AUD

■ プラス要因
■ マイナス要因

¥137.7/USD
¥150.3/EUR
¥90.3/AUD

■ プラス要因
■ マイナス要因

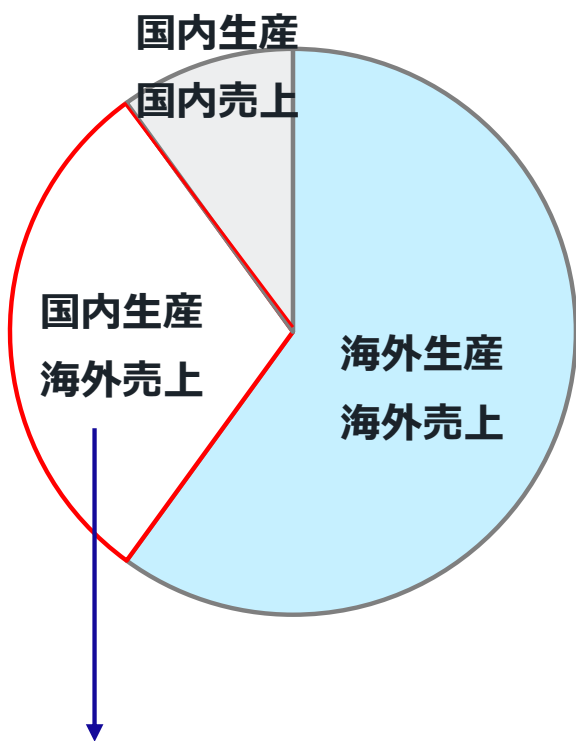
13.5% ———— 売上高セグメント利益率 ———— 15.4%

<建設機械・車両>セグメント利益分析

- 建設機械・車両部門のセグメント利益を「為替影響」と「販売価アップと原価上昇」の切り口で分析。

為替影響

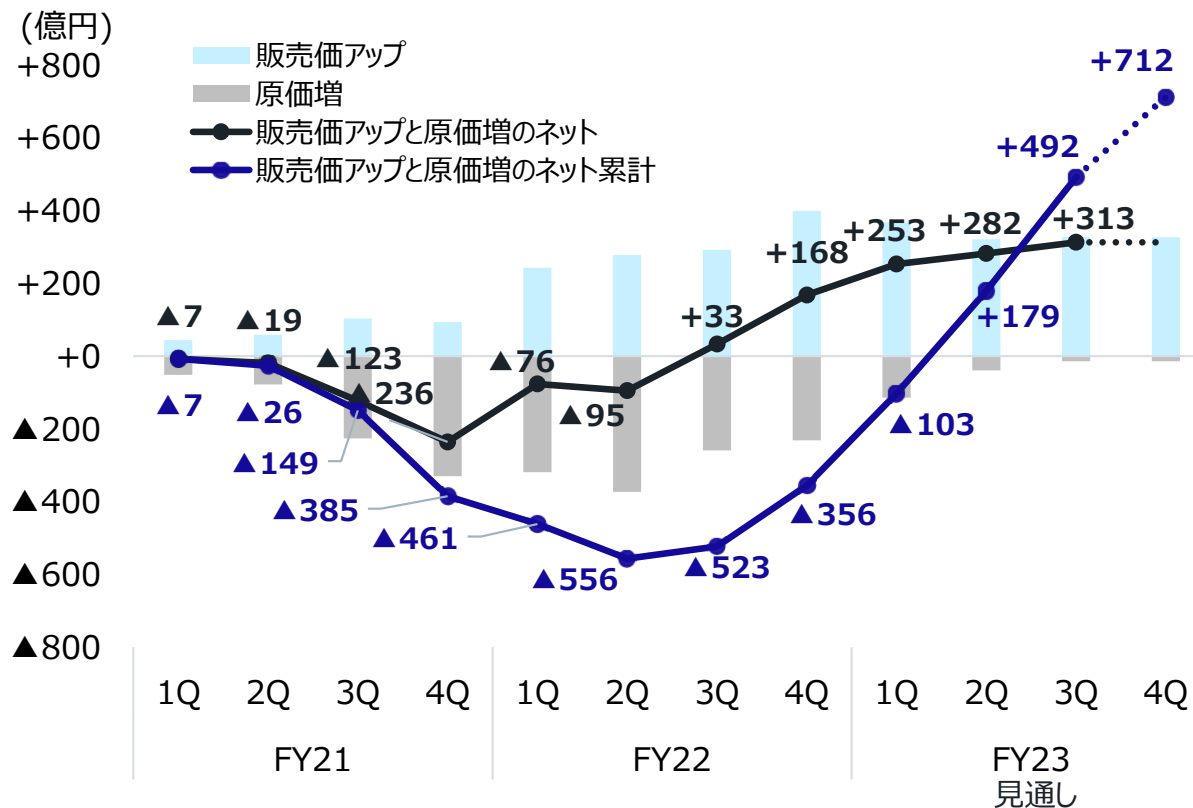
国内と海外の生産と販売の構成



日本から輸出する部品や本体は円建て生産、外貨建て売上
⇒ **利益に為替変動の影響**

販売価アップと原価上昇

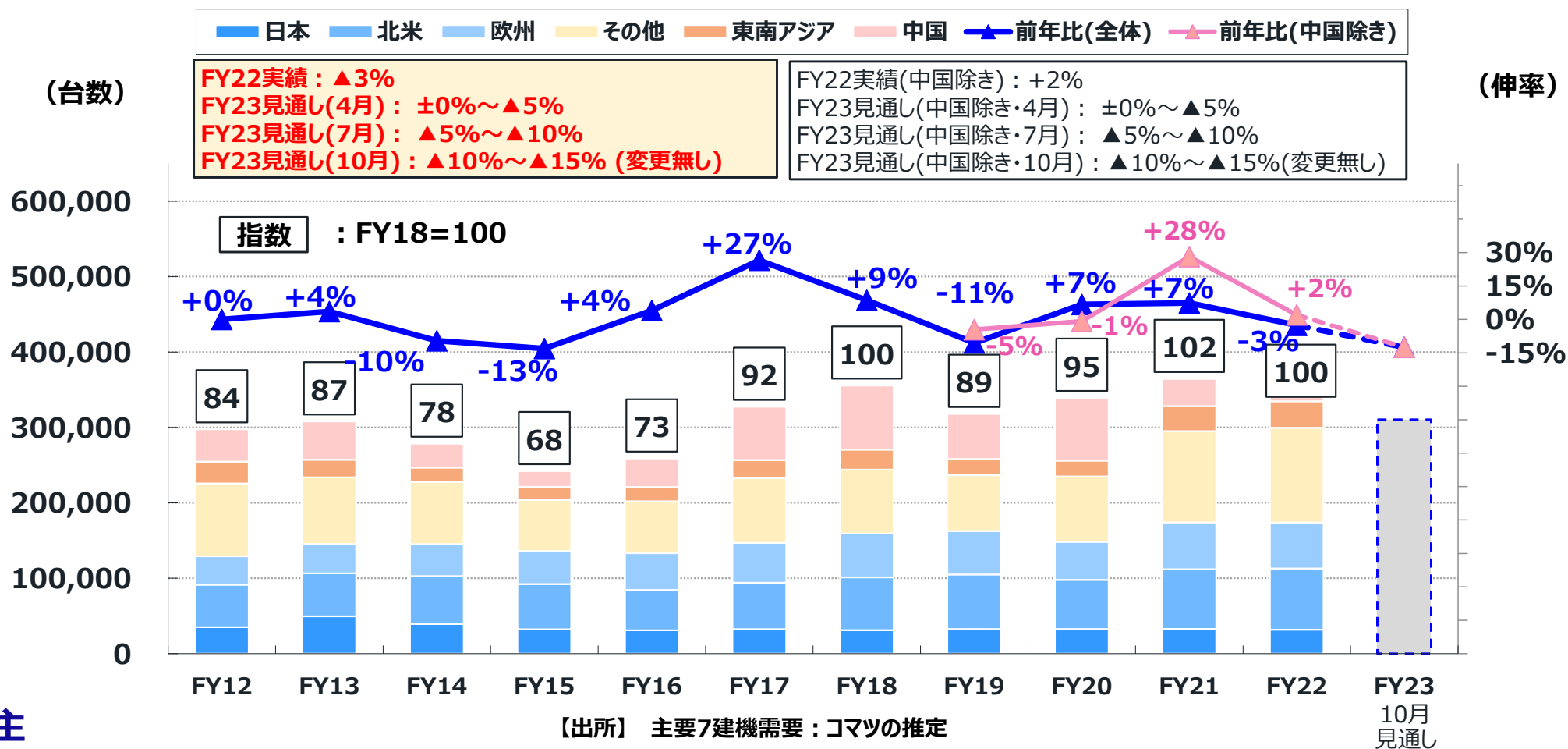
販売価アップと原価上昇の推移



- FY23は原価アップが一段落する一方、値上げをFY22並みに実施
- FY21-FY23累計で原価上昇を上回る販売価アップを実現**

<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

- 2023年度の需要は、前年比▲10%～▲15%の見通し。
- 中国を除く地域でも、前年比▲10%～▲15%の見通し。

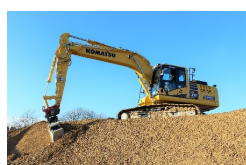


主要7建機

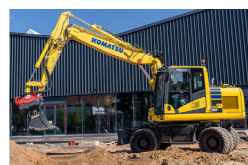
KOMATSU



ブルドーザー



油圧ショベル
(クローラー式)



油圧ショベル
(タイヤ式)



ホイールローダー



ダンプトラック



アーティキュレート
ダンプトラック



モーターグレーダー

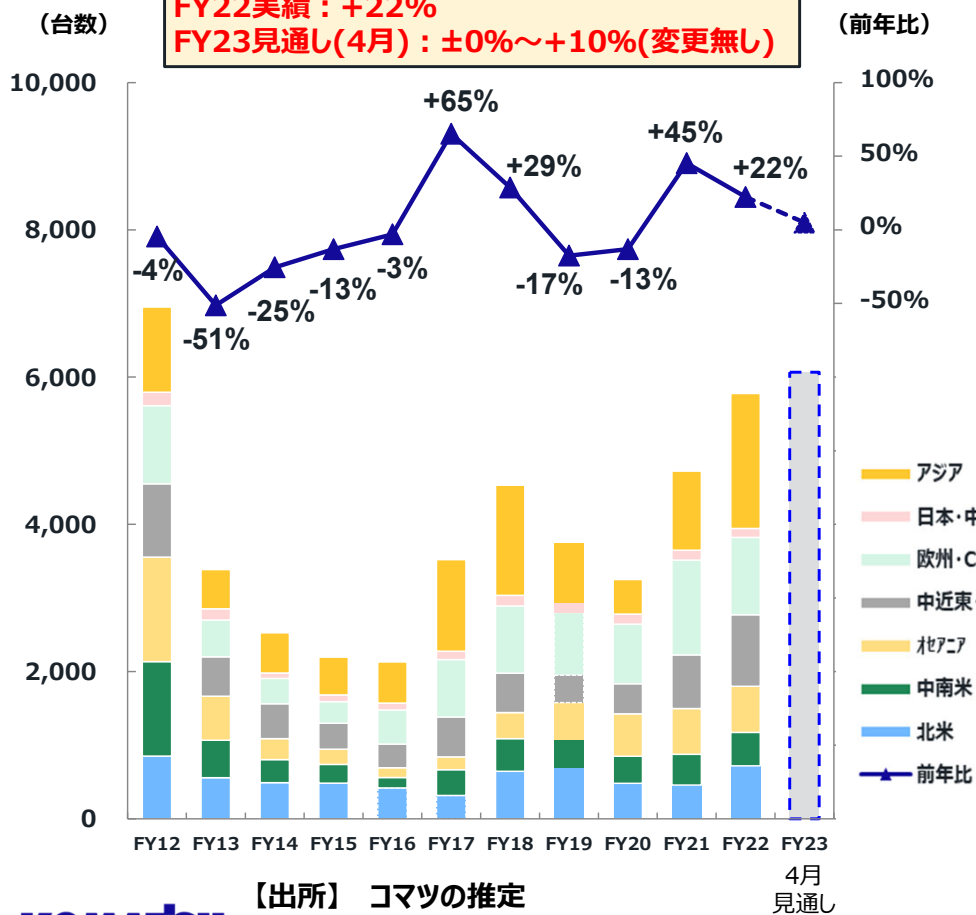
鉱山機械の需要推移と売上高の見通し

- 2023年度の需要は、前年比±0%～+10%の見通し。
- 2023年度の売上高は、前年比+11%増収の1兆5,759億円の見通し。

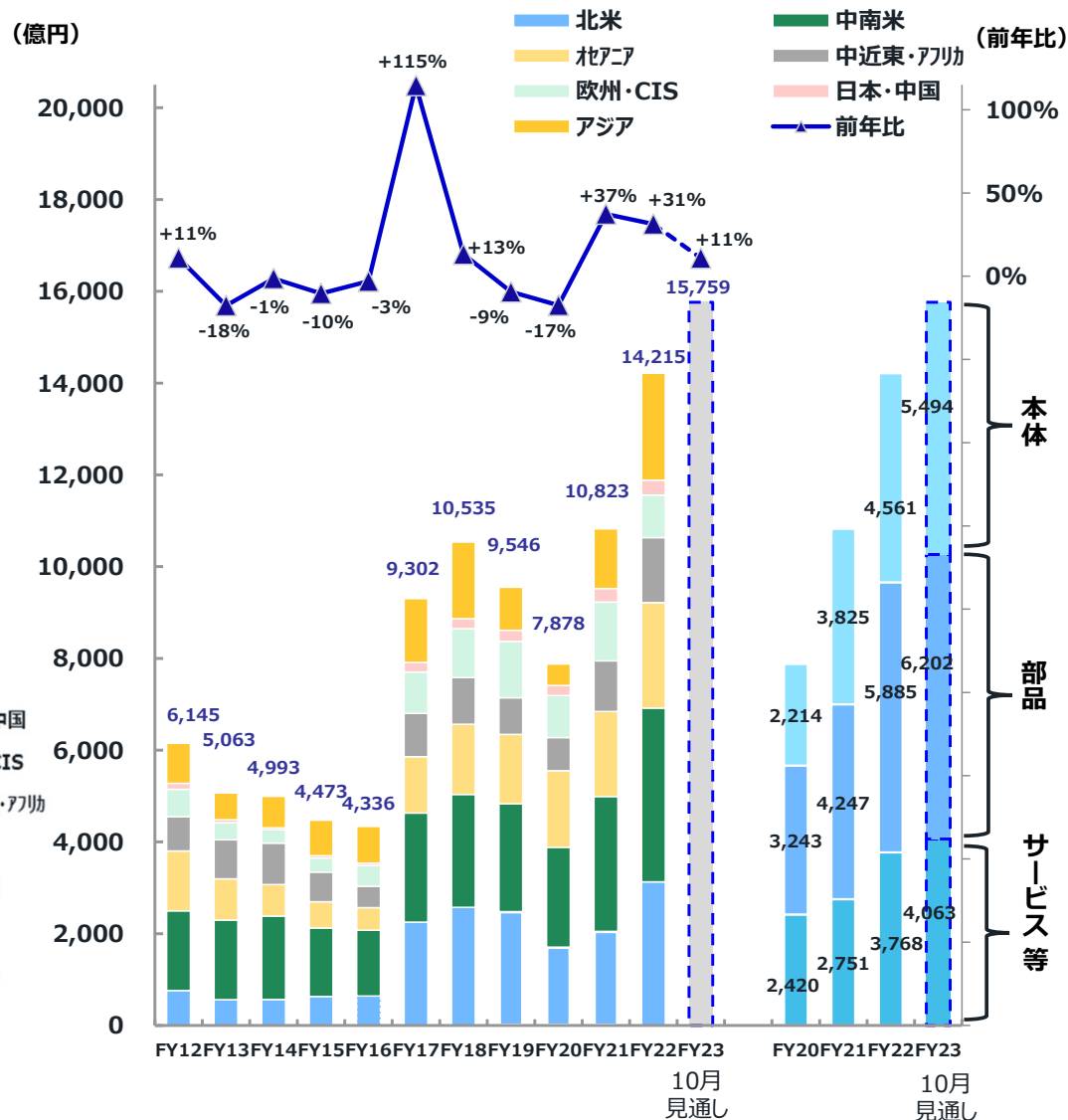
鉱山機械 年度別需要推移

- タンクトラック：75t (HD785) 以上
- エクスカベーター：200t (PC2000) 以上
- モーターグレーダー：280HP (GD825) 以上
- ブルドーザー：525HP (D375) 以上
- ホイローラー（機械駆動）：810HP (WA800) 以上

FY22実績：+22%
FY23見通し(4月)：±0%～+10%(変更無し)



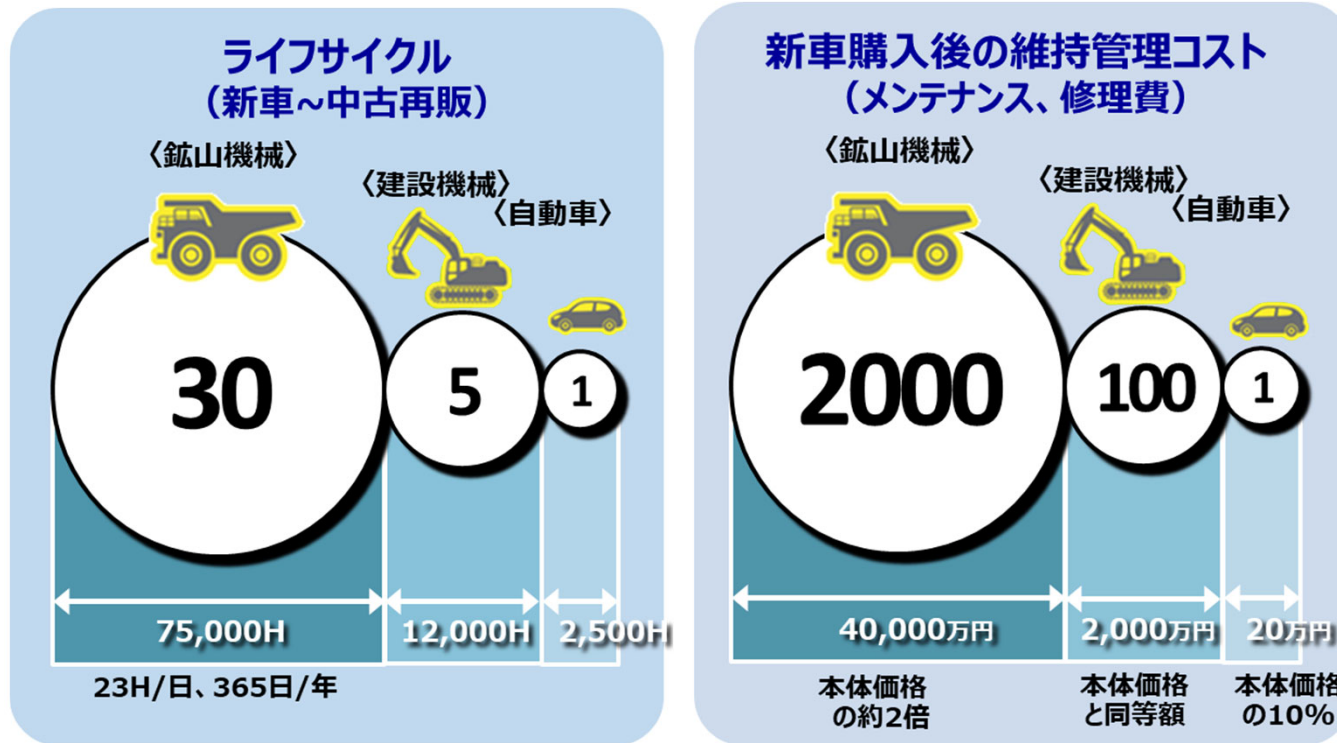
鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



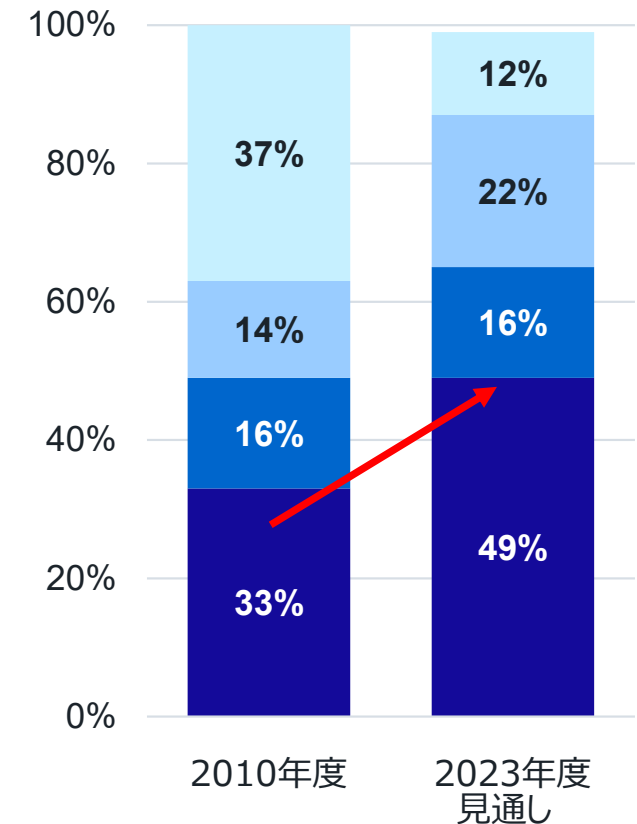
外部環境に左右されない収益体質の構築

- 建設・鉱山機械は新車購入後のアフターマーケットが大きく、機械本体と比べ需要の変動が少ない。
- メンテナンス付き延長保証契約などにより、純正部品販売が伸長。
- 需要変動の大きい市場において、新車の需要に左右されにくい安定した収益構造を実現。

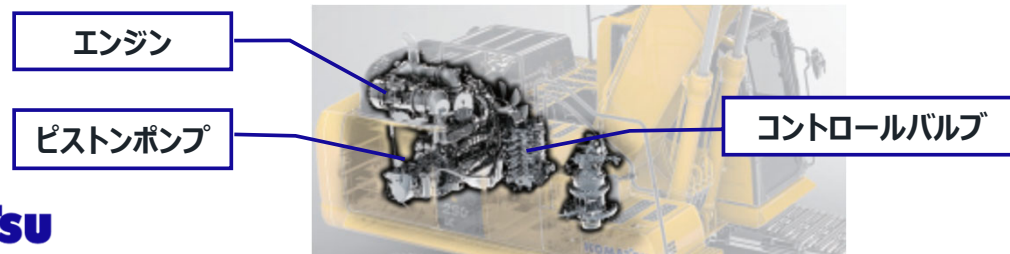
建設・鉱山機械の稼働時間・コスト（対自動車）



建設機械・車両部門売上高構成比



コマツの強さの起点【キーコンポーネントを自社開発・自社生産】



キャッシュ・アロケーションの考え方

- 営業キャッシュ・フローの資金使途は、①設備投資（成長戦略）②借入金の削減（財務健全性維持）、③株主還元 にバランスよく配分。
- キャッシュ・アロケーションの原資となる営業キャッシュ・フローの拡大とともに、将来の安定的な株主還元を継続するため、成長分野への効率的な投資を図る。

営業CF	設備投資	通常投資	35-45%	営業キャッシュフローの約半分を成長投資に充当
		リース・レンタル用投資	5-15%	
		計	約50%	
	株主還元	25-35%	連結配当性向40%以上	
	借入金の返済	15-25%	業界トップレベルの財務体質	
		+		
	M&A	+a	外部リソースの活用を常に検討	

配当方針

- 持続的な企業価値の増大を目指し、健全な財務体質の構築と競争力強化に努める。
- 連結業績に加え、将来の投資計画やキャッシュ・フローなどを総合的に勘案し、引き続き安定的な配当の継続に努めていく方針。
- 具体的には、**連結配当性向を40%以上とする方針。**

<連結配当性向推移>

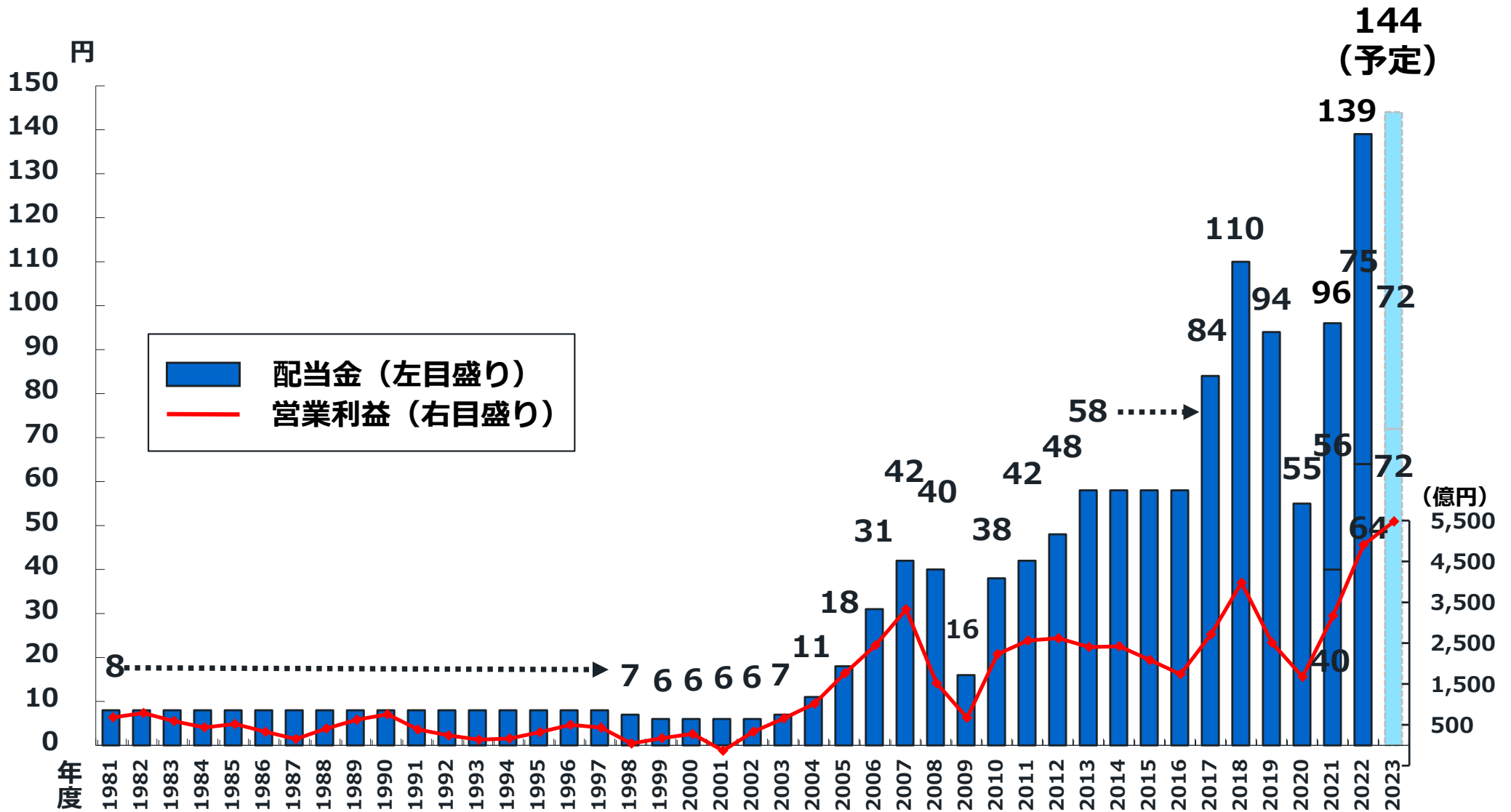
項目/年度	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15
配当方針	20%以上		20%~40%				30%~50%			
連結配当性向 総還元性向	19%	20%	40% 88% *	38% *	24%	24% 42%	36%	35%	36% 55%	40%

* 2008年度、2009年度は構造改革費用を除いたベース

項目/年度	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23予想
配当方針	40%~60%			40%~				
連結配当性向 総還元性向	48%	40%	41%	58%	49% ※	40.3%	40.3%	40.1%

※2020年度の1株当たり配当金には、当社創立100周年の記念配当10円を含む。

配当金の推移



2020年度は記念配当金10円を含む
 配当金に加えて、2008年度、2011年度、2014年度にそれぞれ約300億円の自己株式取得を実施



- 2008年よりNPO「日本地雷処理を支援する会（JMAS）」と提携し、地雷処理から復興までのコミュニティ開発を目的とした支援活動に取り組む。

地雷原



機械で素早く
安全に除去

コミュニティの復興



ブルドーザーベース
<地雷処理用>



油圧ショベルベース
<不発弾処理用>

地雷除去活動



インフラ・農地整備



学校建設



ご清聴ありがとうございました。



【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ サステナビリティ推進本部コーポレートコミュニケーション部 TEL: 03-5561-4711 <https://www.komatsu.jp/ja>

参考資料

長期保有株主さまへの感謝品

- ・当社株式を長期保有いただいている株主さまに感謝品を進呈。
(2014年7月より制度スタート)



- コマツ製品のオリジナルミニチュア(非売品)を対象の株主さまに進呈。
- 森林の立木の伐採に使用される林業機械ハーベスタをミニチュアにしました。

2023年度進呈
931XC ホイールハーベスター

※ 画像はイメージです

対象となる株主さま

基準日(毎年3月31日)現在、当社株式の保有期間が**3年以上(*)**保有し、
かつ**3単元(300株)**以上を保有の株主さま。

*毎年3月31日および9月30日現在の株主名簿に、同一株主番号で、基準日を含めて7回以上連続して当社株式を保有していたと記載されている方。

施設見学会の積極開催



個人投資家向け説明会 ＜オンライン開催＞

コマツの歴史～創業者の精神～

創業者 竹内 明太郎 (高知県宿毛市出身) の志

工業富國基
工業は国を富ませる基なり
人材育成こそが工業富國基の基本

創業者 竹内 明太郎

1921年5月13日 株式会社小松製作所の誕生

創業の精神は、**遺産子として受け継がれる**
～世界に通用する技術を生み出し、世界を相手に勝負する～

- 品質第一
- 技術革新
- 海外への雄飛
- 人材育成

社長のインタビューをウェブサイトに掲示



中間報告書 直近の事業状況や イベントをご紹介 (郵送)

Information

見学会のご案内

2023年 11月30日(水) 午前10時～12月28日(木) 午後5時

2023年 11月30日(水) 午前10時～12月28日(木) 午後5時

2023年 11月30日(水) 午前10時～12月28日(木) 午後5時

コース	開催日	開催時間	定員	参加料	申込	対象
1	2023年 11月30日(水)	午前10時30分～12時	40名	140名	要予約	株主様
2	2023年 12月28日(木)	午後1時30分～3時	40名	140名	要予約	株主様
3	2023年 12月28日(木)	午後1時30分～3時	40名	140名	要予約	株主様
4	2023年 12月28日(木)	午後1時30分～3時	40名	140名	要予約	株主様
5	2023年 12月28日(木)	午後1時30分～3時	40名	140名	要予約	株主様
6	2023年 12月28日(木)	午後1時30分～3時	40名	140名	要予約	株主様
7	2023年 12月28日(木)	午後1時30分～3時	40名	140名	要予約	株主様
8	2023年 12月28日(木)	午後1時30分～3時	40名	140名	要予約	株主様



株主の皆さまへ 中間報告書 第155期

2023年4月1日～2023年9月30日



【写真】ニシヨベル向け蓄電機用付き充電器イメージ(上)/ 新型電動機ニシヨベル(PC30E-6J)(下)

KOMATSU
Creating value together

証券コード: 6301

-電動化建機の市場形成を目指して- リチウムイオンバッテリー搭載13トンクラス電動ショベルを市場導入

- コマツは、リチウムイオンバッテリーを搭載した13トンクラスの電動ショベル「PC138E-11」を、日本市場へレンタル機として2024年1月以降に導入を開始します。
- 日本市場への導入後、欧州市場にも導入することを予定しています。

(2023年11月16日 ニュースリリース)



リチウムイオンバッテリー搭載13トンクラス 新型電動ショベル「PC138E-11」

-カーボンニュートラル実現に向けた電動化事業の加速- 米国 American Battery Solutions社を買収

- コマツは、100%子会社であるコマツアメリカ株式会社を通じて、バッテリーメーカーである American Battery Solutions, Incを買収しました。
- 電動化の需要が高まっている北米・南米の鉱山機械への同社バッテリーの導入を進め、将来的には建設機械への展開・グローバル供給体制の構築を目指します。

(2023年11月20日 ニュースリリース)



ALUANCE
INTELLIGENT BATTERY SERIES

PROUANCE
INTELLIGENT BATTERY SERIES



低電圧用バッテリーパック (左)
高電圧用バッテリーパック (右)

ABS社会長兼CEO Subhash Dhar

-バリューチェーンビジネスの進化による更なる成長を図る- ハイブリッド油圧ショベルの再生コンポーネント事業を国内で開始

- コマツは、日本において、ハイブリッド油圧ショベル用のキーコンポーネントであるキャパシタ（蓄電器）、インバーター（変換器）のリマン（再生コンポーネント事業）を開始しました。
- 今後、海外のハイブリッド油圧ショベルの同コンポーネントについても、対象範囲を拡大していく予定です。

(2023年11月29日 ニュースリリース)



(左) ハイブリッド油圧ショベル稼働写真、(右) コマツハイブリッドシステムのイメージ

-安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場の実現を目指す- 建設・鉱山機械の運行管理システムプロバイダーを買収

- コマツは、豪州の100%子会社を通じて、建設・鉱山機械運行管理システム（以下FMS）のプロバイダーである iVolve社（本社：オーストラリア クイーンズランド州）を買収しました。
- iVolve社は、中小鉱山・砕石業向けFMSを手掛ける技術会社であり、リアルタイムデータへのアクセスを通じて、運行管理情報の見える化、ランニングコストの削減、安全運行を実現するシステムを提供しています。

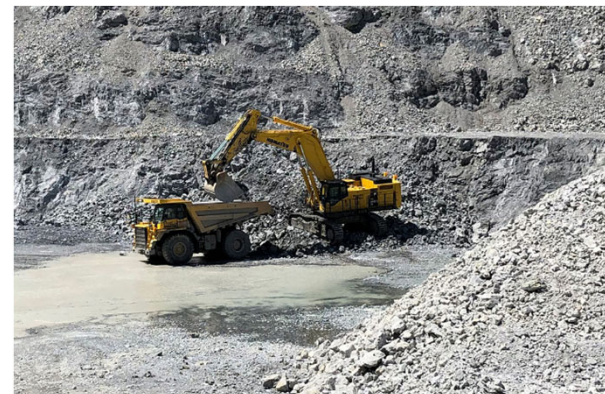
(2023年12月1日 ニュースリリース)

建設土木業向け



スマートコンストラクション®

中小規模鉱山・ 砕石業向け



中小規模鉱山・砕石業向けの
運行管理システムプロバイダー
iVolve社を買収

大規模鉱山向け



モジュラーマイニングシステムズ社
フリート・マネジメント・システム
オンライン会社説明会

コマツとゼネラルモーターズがダンプトラック向け水素燃料電池の共同開発契約を締結

- コマツと米国の大手自動車メーカーであるゼネラルモーターズ（以下、GM）は、コマツのマイニングにおける主力機種である超大型ダンプトラック 930E向け水素燃料電池モジュールの共同開発契約を締結しました。
- 建設・鉱山機械メーカーであるコマツと水素燃料電池技術を50年以上研究・開発し、最先端の技術を保有するGMが共同で技術の開発と検証を進めます。

(2023年12月13日 ニュースリリース)



-モータースポーツ分野での新たな価値創造を目指す- F1チーム「ウィリアムズ・レーシング」とのスポンサー契約を締結

- コマツは、このたび、FIAフォーミュラ・ワン世界選手権（以下「F1」）の代表的なチームの一つである英国「ウィリアムズ・レーシング」との複数年スポンサー契約を締結しました。
- 2024年シーズンのF1開幕戦より、同チームのプリンシパルパートナーとなり、2024年型車体FW46などへのコマツロゴのペイントが掲出されます。

(2024年2月6日 ニュースリリース)



ウィリアムズ・レーシングの2024年型車体デザイン

キッズニア東京にパビリオンを出展

～シミュレーターを用いてブルドーザーなどの建設機械を開発する仕事体験が登場～

- KCJ GROUPが企画・運営を行うこどもの職業・社会体験施設「キッズニア東京」において、コマツがオフィシャルスポンサーとなる「建設機械開発センター」パビリオンをオープンします。
- 本パビリオンでこども達は「建設機械開発者」として、建設機械の種類や役割を学んだあと、建設現場の特性に適した建設機械を開発するために、シミュレーターを活用した運転操作による検証を行います。

(2024年2月20日 ニュースリリース)



「建設機械開発センター」パビリオン イメージ